

令和7年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第3回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第2回 春日山の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

実施日：2025年7月12日（土）18:00～21:00

参加者：9名（学部生：5名、教職大学院：1名、教職員：杉山、河野、中澤）

概要：夕暮れの春日山へ足を踏み入れ、夜になる時間を過ごします。人工的な明かりのない暗闇を体験し森の息遣いを感じます。この日は満月の翌日。月の明るさを感じることもできるかもしれません。

スケジュール	
18:00	春日山遊歩道 南入口集合 出発
18:20	感性の体操（五感で感じる、みみをすます）
18:30	暗くなって行く春日山を歩く、匂い、音、木々のシルエットなどを楽しむ
19:00	妙見宮到着・休憩（軽食）
19:30	暗くなって行く森を明かりを点けずに歩く
20:00	寝転んで過ごす
21:00	遊歩道入口到着・解散

■概要報告

夕暮れから夜の時間までを過ごすフィールドワーク。この日も30度を越える猛暑であった。参加の学生たちは、夜の森で姿を見せるムササビに会いたいという学生が数名いた。照葉樹林でのみ生息するヒメハルゼミの合唱が響く春日山遊歩道に入ると、木陰となっておりほんの少しずしい。

遊歩道に入ってすぐに現れる「イチイガシ」の大木に触れ、春日山原始林が1000年以上に渡り森が維持されてきたことを伝える。

原始林内は徐々に暗くなって行く。数十メートルある木々には、夕暮れの太陽が当たっているが、遊歩道は徐々に闇が迫ってくる。

少し広いスペースで、五感の体操。目を閉じて、風や光、音などをじっくり聴く時間をつくる。森の中では、木々やシダ・コケ・キノコなどから出てくる花粉や胞子など目には見えない森の一部が漂っており、それを体に取り込む意識を持って深呼吸をしてみるように促した。

森をゆっくり歩きながら、ギャップに生えている植物の偏りや、曲がりにくねった木々がなぜこんな形になったのかを考えてみたり。薄暗くなるとシルエットがくっきりと見えてくるため、木々の形に注目して歩く。妙見宮の階段下で休憩し、暗くなるのを待つ。

日が落ちるとともに、ヒメハルゼミの鳴き声がやみ、森は静かになる。徐々に暗くなるため、目が慣れて暗闇でも懐中電灯なしで歩くことができる。暗くなると行きでは意識することのなかった匂いや音に敏感になっていることに気づく。アオバズクがホーホーと鳴いている側で、ムササビの鳴き声も聞こえてきた。

下山途中のポイントで道に寝そべる。静かにすごしていると数頭のムササビの鳴き声とともに、滑空する姿も見ることができたようだ。この日はムササビが好奇心旺盛にこちらに注目してくれたおかげで、飛ぶ姿だけでなく、木の上で枝に止まる姿も見ることができた。

下山中にギャップになっている箇所では星を眺めたり、小さなライトで照らして道側にいる生き物を観察したり、さまざまな形で夜の森を体感する機会となった。

■写真



挨拶



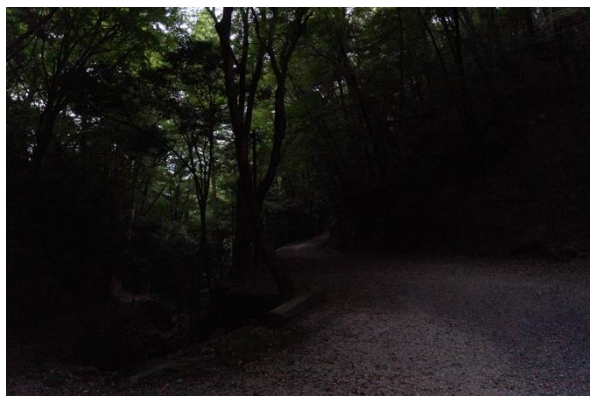
イチイガシの巨樹



春日山に関する解説



感性の体操（みみをすます）



暗くなる遊歩道（19時少し前）



寝転び後は明かりをつけて歩く。